

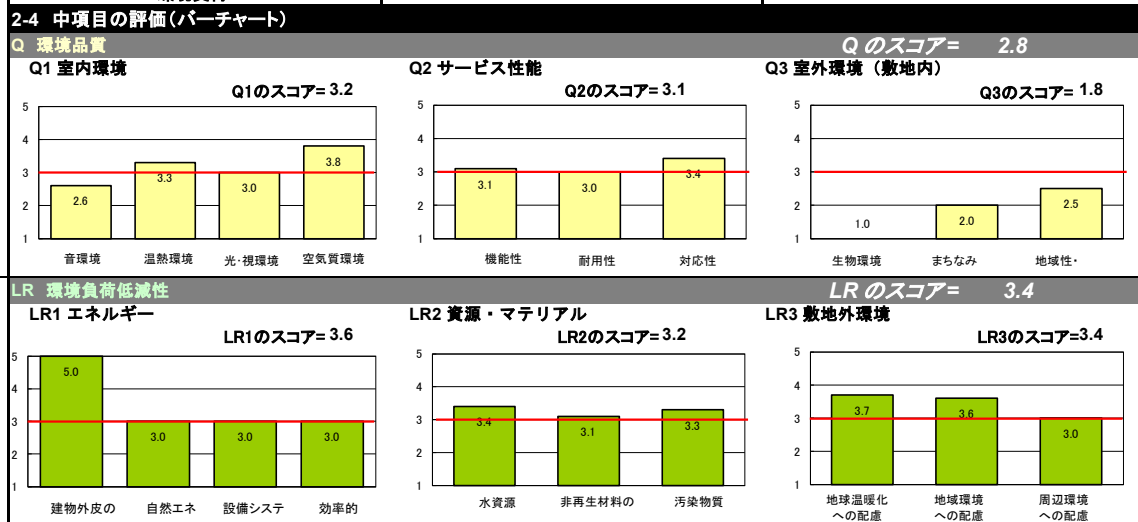
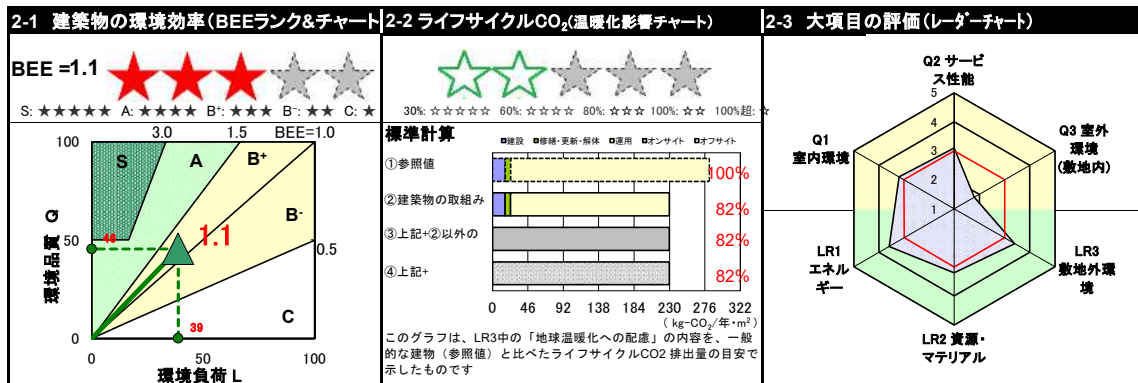
CASBEE[®] あいち

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

評価結果

1-1 建物概要	1-2 外観
建物名称 (仮称)やまのぶ赤池店	階数 地下1階地上1階
建設地 日南市赤池町見ノ字山邊赤池見ノ字土地開発管理事業第0006(1234567-17-233)	構造 S造
用途地域 第一種住居地域	平均居住人員 200 人
気候区分 6地域	年間使用時間 4,500 時間/年
建物用途 物販店	評価の段階 実施設計段階評価
竣工時期 2026年10月 予定	評価の実施日 2025年9月10日
敷地面積 4,960 m ²	作成者 白田 あき子
建築面積 2,575 m ²	確認日 2025年9月10日
延床面積 2,826 m ²	確認者 上野山 有一



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
3.7 	1.0 	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		0.0 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
3.1 	1.0 	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$ 建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$ 

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)やまのぶ赤池店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体							
配慮項目		重点項目				評価点		評価点		重み係数		評価点		評価点		重み係数		全体	
Q 建築物の環境品質																		2.8	
Q1 室内環境										0.40								3.2	
1 音環境						0.1		2.6		0.15								2.6	
1.1 室内騒音レベル						3.0		3.0		0.40									
1.2 遮音						0.4		3.0		0.40									
1		開口部遮音性能						3.0		1.00									
2		界壁遮音性能										3.0							
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)										3.0							
4		界床遮音性能(重量衝撃源)										3.0							
1.3 吸音								1.0		0.20		3.0							
2 温熱環境						0.3		3.3		0.35								3.3	
2.1 室温制御						0.5		3.6		0.50									
1		室温				3.0		3.0		0.50				3.0					
2		外皮性能				3.0		3.0		0.17				3.0					
3		ゾーン別制御性		空冷ヒートポンプ式マルチエアコンを採用		3.0		5.0		0.33									
2.2 湿度制御						3.0		3.0		0.20				3.0					
2.3 空調方式						3.0		3.0		0.30				3.0					
3 光・視環境						0.2		3.0		0.25								3.0	
3.1 昼光利用						0.5		3.0		0.50									
1		昼光率				3.0								3.0					
2		方位別開口																	
3		昼光利用設備				3.0		3.0		1.00				3.0					
3.2 グレア対策																			
1		昼光制御				5.0								3.0					
3.3 照度						3.0								3.0					
3.4 照明制御						3.0		3.0		0.50				3.0					
4 空気質環境						0.2		3.8		0.25								3.8	
4.1 発生源対策						0.5		4.0		0.50									
1		化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆を採用		3.0		4.0		1.00				3.0					
4.2 換気						0.3		3.5		0.30									
1		換気量				3.0		3.0		0.50				3.0					
2		自然換気性能				3.0								3.0					
3		取り入れ外気への配慮		給気口と排気口は離れて設置、給気口付近に汚染源なし		3.0		4.0		0.50				3.0					
4.3 運用管理						0.2		4.0		0.20									
1		CO ₂ の監視				3.0		3.0		0.50									
2		喫煙の制御		全館禁煙としている		3.0		5.0		0.50									
Q2 サービス性能										0.30								3.1	
1 機能性						0.4		3.1		0.40								3.1	
1.1 機能性・使いやすさ						0.4		3.0		0.40									
1		広さ・収納性				3.0								3.0					
2		高度情報通信設備対応				3.0								3.0					
3		バリアフリー計画		独自		3.0		3.0		1.00									
1.2 心理性・快適性						0.3		3.3		0.30									
1		広さ感・景観 (天井高)		売場の天井高3.8m以上		3.0		5.0		0.33				3.0					
2		リフレッシュスペース				3.0		2.0		0.33									
3		内装計画				3.0		3.0		0.33									
1.3 維持管理						0.3		3.0		0.30									
1		維持管理に配慮した設計				3.0		3.0		0.50									
2		維持管理用機能の確保						3.0		0.50									
2 耐用性・信頼性						0.3		3.0		0.31								3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4		3.0		0.48									
1		耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0		3.0		0.80									
2		免震・制震・制振性能				3.0		3.0		0.20									
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3		3.0		0.33									
1		躯体材料の耐用年数		②				3.0		0.23									
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0		0.23									
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0		0.09									
4		空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0		0.08									
5		空調・給排水配管の更新必要間隔		主要管にB以上を採用				5.0		0.15									
6		主要設備機器の更新必要間隔						3.0		0.23									
2.4 信頼性						0.1		3.0		0.19									
1		空調・換気設備		②		3.0		3.0		0.20									
2		給排水・衛生設備				3.0		3.0		0.20									
3		電気設備				3.0		3.0		0.20									
4		機械・配管支持方法				3.0		3.0		0.20									
5		通信・情報設備				3.0		3.0		0.20									

3 対応性・更新性				0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高平均3.9m以上	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.11	3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	1.8
1	生物環境の保全と創出	独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.6
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.79	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI _m =0.8	3.0	3.0	0.30	-	-	-	3.0
4	効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水		自動水栓、擬音装置を採用している	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.1	0.63	-	-	-	3.1
2.1	材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	再生クラッシャーランRC-40、外部舗装	3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	全面的にLGSの使用	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		吹付硬質ウレタンフォームA種1H、フェノールフォーム断熱材1種2の使用	-	4.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率82%	-	3.7	0.33	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				0.3	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2.1	大気汚染防止		燃焼設備なし	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.5	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	適切な量の駐車・荷捌きスペースを確保	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
（仮称）やまのぶ赤池店

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	3.1
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア＝

④地域材の活用

重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)やまのぶ赤池店

計画上の配慮事項	
総合	車両の出入りが円滑に行えるよう、一般車両と管理用車両の出入口はできるだけ離れた位置とした。 建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用。
Q1 室内環境	建物は全館禁煙とし、照明に昼光利用設備を取り入れることで環境負荷低減に配慮。
Q2 サービス性能	売場の天井高さ3.8m・階高を3.9m以上とし建物高にゆとりをもたせる。
Q3 室外環境(敷地内)	建物外部のスペースにおいて、境界に設置するフェンスは見通しの良いものとし防犯性に配慮。
LR1 エネルギー	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律に適合。
LR2 資源・マテリアル	全面的にLGSの使用。
LR3 敷地外環境	燃焼設備は一切使用していない。 自転車置場、駐車場及び管理用車両の十分な駐車施設を確保。
その他	特になし